



藻谷氏を招いて「これからの寄居を語り合う」。コロナ対策に万全を期して、換気は十分でしたが、熱気を帯びた対談となりました。



にぎわい、活気はつくり出すもの (左から) 震災復興支援 チャリティー サンマ祭 / 「ぼくが一番!」 親たちの歓声も響いた こどもストライダー大会 / 市街地に多くの人が集まる ふるさとの祭典市

100人 アンケート 若世代

寄居町を変えていくために必要なことは?

高齢者が活躍すること 3人

若い人が活躍すること 61人

世代交代 21人

外部から専門家を招く 15人

生まれ育ったこの町「寄居」で

都内での経験を生かして「地元の人たちが気軽に寄れてホットできる場所をつくりたいな」と思ってカフェを開業したんです。

やっぱり、生まれ育った寄居が好きです。

山口未来さん (録形)

議会は、常に若者の「声」を聞いていきます。寄居の若者に「議会は必要?」とズバツと聞いた、議会だより No.88もご覧ください。



100人 アンケート 若世代

寄居町の可能性を生かしていくポイントは?

文化・歴史 3人

自然が豊か 27人

交通の利便性がよい 25人

災害に強い 25人

都内から近い 14人

人のよさ 6人

キーワードは原点回帰

寄居の良さは「余白」が溢れていること。無いものは、ゼロから新しく作り出せばいいと思っています。若者の可能性を引き出す未来の寺子屋を開き、次世代につなげる持続可能なまちづくりのために貢献したいですね。清田享平さん (西部)



実感した「寄居の人の良さ」

「これから学校?」近所の人のこんなひと声が、とても温かいんです。東京に住んだからこそ、今、改めて感じているのは「寄居の人の良さ」です。

大木梨世さん (用土)



次の時代を走る君たちへ

最後に、寄居町の若者に一言お願いします。

藻谷 若い方に一言申し上げるなら「いい学校を出ていい会社に入るのが目的のお受験エリートになるな」ということですね。日本は短期間で急速に寿命が伸び、人生100年時代となりまして、60歳まで必死に競争して勝ち組のつもりでいても、残りの40年はどう生きるのでしょうか。本当の教育とは「生食っていきけることを教える教育」です。「寄居町なんてダメだ」と言っている人の意見は聞かないほう

ることができる。十分開催できるはず。あとは、経済だけでなく文化の香りのするものも若い定住者を増やすポイントです。例えば図書館。寄居は伝統的に文化の香り高い町ですから、中身の魅力的な図書館づくりにチャレンジしてみるのもおすすめです。

ヒト・モノ・カネ・情報が、使い潰されず、淀まらずに循環し、再生され、次世代に続いていく社会をめざしたい

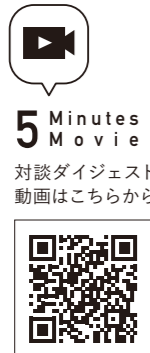
寄居のポテンシャル

— それでは、寄居町の可能性を引き出すために、オススメの取り組みはありますか。

藻谷 都内に住んでいるとわからないかもしれませんが、寄居は立地条件と住み良さを兼ね備えている。さすが世界のホンダが選んだ町だ、と思います。ただ、その「町のポテンシャル(潜在的な力)」を生かしていき

ていらないように感じます。例えば、いま首都圏近郊の道の駅、農産物直売所、腕の良いマネージャーのいるところは大量に存在している。地元の農家や日曜農家を巻き込んで大きな経済循環を起こしています。キッチンカーやコーヒースタンドを併設した新しいタイプの朝市もブームで、八戸市の館鼻岸朝市は、毎回1万人以上の集客があります。マルシェや朝市をやるとして、例えばこの寄居町役場の駐車場はすごくいいですよ。駅の横だから首都圏からも買いに来

変化は起きるものではなく“起こすもの”なんです(藻谷)



5 Minutes Movie 対談ダイジェスト動画はこちらから

— この対談をきっかけとして「新たな挑戦者」が現れることを期待したいと思います。本日はありがとうございました。

都会で大企業の歯車の一部になるよりも、寄居町で本業のほかにもいくつもの仕事をこなし、仲間とともに70歳、80歳になってもやりがいを持って働ける人生のほうがいいか。魅力的だと思いませんか、いかがですか。人は、意識しなければ自分を変えることはできません。しかし、寄居の魅力に気づき、自分を変えることができた1%の人が寄居町を変えていくことになると思います。

がいいですね。田舎にいても都会にいても、そしてどんな状況になっても、たくましく生きていける力が重要。いま、チューバーとして儲けている高校生もいます。昔は考えられなかったことです。今は「やれる人は、どこにいてもどんなやれる」という土台はできているんです。

